

令和8年第4回宝塚市教育委員会の会議（定例会）会議録

- 1 開催日 令和8年3月13日（金）
- 2 場 所 宝塚市役所 政策会議室
- 3 開会時間 午後2時30分
- 4 閉会時間 午後3時55分
- 5 出席した委員の氏名
赤井 稔教育長、松浦 一枝委員、石井 克馬委員、春日井 敏之委員及び川上 泰彦委員
- 6 除斥した委員の氏名
- 7 委員及び傍聴人を除く、議場に出席した者

管理部長	高田 輝夫	教育企画課長	飯田 博
学校教育部長	藤川 明人	職員課長	河合 晋一
社会教育部長	番庄 伸雄	学校教育課長	石田 勝久
管理部長次長	池本 和義	学校教育課副課長	大善 雄
学校教育部長次長	前田 政子	教育研究課副課長	前川 真宏
学校教育部長次長	山下 昌裕	教育企画課係長	板垣 慎一郎
		職員課係長	松永 雄太
- 8 会議の書記
教育企画課事務職員 中瀬 陽子
- 9 議題
報告第2号 専決処分した事件の承認を求めることについて
報告第3号 専決処分した事件の承認を求めることについて
議案第4号 第2次宝塚市教育振興基本計画（後期計画）の策定について
報告事項 令和7年度実施 宝塚市学習理解度調査の結果について

会議の概要

開会 午後 2 時 30 分

赤井教育長

それでは、令和 8 年第 4 回宝塚市教育委員会定例会を開催いたします。
本日、傍聴の希望者はいらっしゃいますか。

飯田課長

傍聴希望者はいらっしゃいません。

赤井教育長

本日は、春日井委員がオンラインで出席されております。
本日の署名委員は石井委員です。よろしくお願ひします。
本日の付議案件は、報告事項 2 件、議決事項 1 件、議決事項以外の案件 1 件です。
それでは、進行について事務局からお願ひします。

飯田課長

本日の付議案件は、報告事項 2 件、議決事項 1 件、議決事項以外の案件 1 件です。
案件は、報告第 2 号 専決処分した事件の承認を求めることについて（宝塚市公立学校教員の処分内申について）、報告第 3 号 専決処分した事件の承認を求めることについて（宝塚市公立学校教員の処分内申について）、議案第 4 号 第 2 次宝塚市教育振興基本計画（後期計画）の策定について、報告事項 令和 7 年度実施 宝塚市学習理解度調査の結果についてです。
審議の順としましては、議案第 4 号、報告事項、報告第 2 号、報告第 3 号の順でお願ひします。
報告第 2 号及び第 3 号につきましては、教職員の個人に関する案件のため、非公開での報告でお願ひいたします。説明員以外の方は退出していただきます。
ご審議のほどよろしくお願ひいたします。

赤井教育長

それでは、議案第 4 号 第 2 次宝塚市教育振興基本計画（後期計画）の策定について、担当課より説明をお願ひいたします。

飯田課長

議案第 4 号 第 2 次宝塚市教育振興基本計画（後期計画）の策定について、提案理由及び内容を御説明申し上げます。
本件は、教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）第 17 条第 2 項の規定に基づき、令和 8 年

度から令和 12 年度までの 5 年間を計画期間とする、第 2 次宝塚市教育振興基本計画（後期計画）を策定するものです。

第 2 次後期計画の策定に当たりましては、令和 7 年 2 月、教育長、教育委員及び教育委員会事務局の部長級職員をもって組織する「第 2 次宝塚市教育振興基本計画（後期計画）検討会」を設置し、子ども・教員・学校運営協議会委員へのアンケート実施のほか、計 9 回にわたり検討を重ねていただきました。また、このうち 2 回は、様々な分野の方から広く意見を聴くため、知識経験者、公募による市民、教職員等からの意見聴取を行いました。

検討の結果、第 2 次後期計画では、第 2 次前期計画における基本方針や体系は維持しつつ、教育を取り巻く状況の変化や今後の見通しを踏まえて施策の整理・追加、文言の整理を行いました。

本日は、デザイン等につきまして、ご意見等いただければという風に考えております。

まず第 1 章としまして、「はじめに」ということで、教育委員会のメッセージです。

1 ページ目、2 ページ目で計画の概要、3 ページ目から 6 ページ目までが第 2 章ということで、教育の基本的な考え方です。総合教育会議等でも市長からご意見をいただいた内容となります。第 3 章からが、7 ページからが 8 つの重点施策となります。

学校園での運動の様子ですとか、子どもたちがタブレットを使っている様子などを 9 ページ、10 ページと写真を入れています。

15 ページからが第 4 章の個別の施策ということになります。15 ページから 68 ページの方まで、施策を掲載しております。

教育の方向性は 1 から 4 までありますけれども、ページごとに、その教育の方向性ごとに色を 4 つに分けて、それぞれピンクであったりブルーであったりとどの教育の方向性の内容かというのが分かるように色分けをしております。

それと、第 5 章でいじめ防止、69 ページ、70 ページになりますけれども、こちらがいじめの再発防止に向けてということで、いじめ防止等の基本方針について述べております。

改訂版の宝塚市いじめ問題再発防止に関する基本方針ですので、69 ページ、70 ページに掲載しております。

71 ページ以降が資料編ということで、用語解説を 75 ページから 79 ページまで載せております。

それと本編とは別に、概要版を作成しております。

概要版につきましては、宝塚市の現状と課題ですとか、目標、教育の方向性やイラストなどを入れながら載せておまして、基本的には 8 つの重点施策を軸に、概要版に掲載をして、概要版の 5 ページ以降で教育基本方針、教育の方向性を基本方針単位で示しております。

42 の施策は文字数が多くなるという課題がありますのでこの概要には載せてはいないのですけれども、教育の方向性と基本方針の単位で記載をしております。

それと、概要版の 7 ページには、いじめ問題等の再発防止で本編の第 5 章に当たるもの

を掲載しております。

計画の進行管理については、引き続き毎年度の事務執行等評価により妥当性や整合性について検証してまいります。また、計画の最終年度となる令和12年度には、総合的な点検・評価に基づき、第3次計画に向けての検討を行っていきたいと考えています。

最後に、計画書につきましては、学校園をはじめ各関係団体へ配布するほか、保護者連絡ツールでの配信や市ホームページに掲載するなど、広く周知を図ってまいります。

説明につきましては以上になります。

赤井教育長

ありがとうございます。

それでは、この件について何かご質問等ありましたらお願いします。

石井委員

何点かあるんですけども、まず、表紙なのかな、どこでもいいと思うんですけど、市章、宝塚市のマーク、これはあえて無しなんですかね。

前の計画を持ってくるの忘れていたんですが、市章はなしでいいのかなっていうところちょっと気になりました。

それから写真ですね。9ページのICT活用での写真なんですが、ICTを使用と言いながら、左下の写真がタブレットを閉じてるので、これはどうかなと。

あと、13ページ、そもそも学校は、図書施設ではなく「図書館」なのですか。

高田部長

学校図書館です。

石井委員

「学校図書館」で良いんですね。

これは図書館で授業をしてる様子で、図書館の利用の写真ではないなと思ったんです。13ページの写真が、図書館で授業をしているというメッセージであればいいと思うんですけども。

板垣係長

これは図書館で授業をしている様子です。

石井委員

ですよね。でも、表題が「読書活動」なので、ちょっとこの写真じゃないなって思っています。

高田部長

もっと自由に、写真では図書館で読書してて欲しいですね。
読書活動なんで。
児童は、下向いて本読んどいてほしいですよ。

石井委員

そうですね。
あと 15、16 の 4 つのテーマ、色分けで見やすくなったけど、これ数字が横向いているのはデザインの的に、ですか。

板垣係長

業者に依頼するときには、修正されます。

石井委員

分かりました。
それぐらいですね、デザインの的には。

飯田課長

市章は、前も入れていないです。

石井委員

前回の計画にも、入れてないんですね。
市章は、入れなくて良いんですかね。

赤井教育長

宝塚市のほかの計画関係で、市章入ってるのってありますか。
わからないね。あんまり聞いたことないけど。

高田部長

総合計画は、もしかしたら入ってたかもしれませんね。

飯田課長

この計画とちょっと合わせるような形で、ちょっと調べてみます。

番庄部長

個別計画では、あんまり見たことないです。

事業計画で大きい計画ではあるかもしれませんが。食育とかあんまり宝塚市のは入ってないかな。

石井委員

でも「はじめに」は、いきなり「本市では」と始めてるんで、市章がないのはどうなんでしょう。

赤井教育長

そこは事務局で確認してもらっていいですか。

写真も変更することは、まだ可能ですか。

板垣係長

まだ可能です。

9 ページについては、一応タイトルは ICT を使用した授業風景ということで、右下の小学校についてはモニターを使って作成をしてる写真、左側はタブレットで色々調べ物をして、紙でちょっと書いてまとめて発表というような、デジタルとアナログが混ざっているっていうところでチョイスをしたんですけれども、今一つというご意見もありますので、何かあればちょっと探してみます。

石井委員

開いて見ながら書いてる写真のようなものが、ないですかね。

板垣係長

児童の顔がはっきり分かってしまうので、ちょっと斜めから撮っているというところで、こういうものになりました。

石井委員

誰も開いてないですね。

春日井委員

リアルな授業の姿の一端なので、タブレット開けてずっと見てるばかりではないと思うので、そういう風に見てもらえれば。

図書館の 13 ページも図書館で授業やっておられる風景ですよ。自由な活動じゃなくて、そういうものとしてはありうるかなという風には思っていました。

これ、一応写真の掲載については、学校というか本人というか、了解は皆さん取れてるん

でしょうか。

飯田課長

はい、元々他に転用する可能性があるということで、保護者や本人との了承を得ている写真を使わせていただいています。

春日井委員

わかりました。

赤井教育長

そしたら、良い写真があれば検討するということでよろしいでしょうかね。
他、何かございますか。

春日井委員

概要版ってどの範囲で配布されて、どんな活用をされるんでしょうか。
これ、よくまとまってると思うので。
現場の先生方には、概要版が配られるという理解でよろしいですか。

板垣係長

学校園については、全てデータで配布いたしまして、校長については紙で印刷したものを配布いたします。

あと概要版については、学校園と、あとは私立の学校園であったりとか、人権センターであるとか、広く教育的な施設については、概要版を配布いたします。

計画本体は、広くは配らないんですけども、教育関係には概要版をもってご理解いただいて、ホームページで本体を見ていただくような周知を考えております。

春日井委員

じゃあ、その概要版も紙媒体ではなくてデータで配布して、各機関で広く広めてください、そういう意味合いですか。紙で配られるんですか。

板垣係長

そうですね、施設に1つとかでは配りますけれども、施設の職員全員分の概要配布はいたしません。

春日井委員

わかりました。

赤井教育長

ちなみに、本編と概要版、何部ぐらい作る予定をしますか。

板垣係長

本編が 300 部です。概要版は 500 部で検討しております。

実際に配布するのが、本体は 120 部ほどと、概要版は 200～300 部以下ぐらいで、残りはストックを考えております。

春日井委員

役所の窓口とかには、置かれないんですかね。

板垣係長

設置いたします。

春日井委員

ですよ。市民向けにも発信した方がいいなと思って。

はい、わかりました。

赤井教育長

だから、社会教育施設も含めて、公の施設には結構、概要版を置くと考えて良いですか。公民館とかね。

板垣係長

はい、送ります。

赤井教育長

保護者には概要版をデータで送って、この 2 次元コードで本編見ってもらうような、ホームページを見ってもらうようなイメージですね。

板垣係長

そうですね。データについては、概要版と本編をホームページに公開しまして「すぐーる」であったり、「コドモン」であったり市の LINE とかでも策定時には周知いたします。

赤井教育長

分かりました。

他に何かございますか。

松浦委員

私、前期計画の時にも同じような意見を言った覚えがあるんですけど、イラストなんですけれどね。

せっかくこう「ダイバーシティ教育」とか言っているのに、やっぱりもうちょっと子どもたちが、例えば外国人の子とか、ハンディキャップ持ってる子とか、いろんな子どもが出てきた方がいいんじゃないかなと思います。

あと、家族が出てくるときにいつも思うんですけど、どうしてもお父さんとお母さんとお兄ちゃんと妹っていう、この標準家庭がいつも出てくるのに、ちょっと違和感を、私は感じるんですよ。

なんかそのあたりは、他の皆さんはどうですか。

赤井教育長

どなたか、意見ありますか。

松浦委員

あんまり、気にならないですか。

赤井教育長

当初のイラストで、表紙の女の子がスカートであったりとかした分については、私の方からも意見して変えてもらったりはしたんですけど、それ以外の外国人っていう観点はなかったですね。

家族っていうのは、概要版ですかね。

松浦委員

そうですね。概要版の方だけですね。

赤井教育長

でも1つの方、多分これ地域なんかな。お高齢の方が入ってるんかな。

これ家族なんかな、多分家族やろうな。概要版の6ページ。

松浦委員

そうですね、おじいちゃん、ばあちゃんですよ。

赤井教育長

なかなか地域の方とかいうのを、そう見せるのは難しいもんね。

高田部長

もしかしたら地域の方かもしれないけど。

赤井教育長

家族写真のように見えるから。

松浦委員

そうですね、これだと。

高田部長

ここにもう 1 人おじいちゃんがいたりとかすると、もしかしたら地域の方に見れたりするんでしょうね。

松浦委員

そうですね。ちょっと違う年代の人が入るとか。

板垣係長

肌の色であるとか、障害をお持ちの方のイラストであったりとか、前期計画は福祉教育という施策に車椅子の写真であったりとか、表紙に車椅子の写真、イラストを載せてはいたんですけども、ちょっと今回、都市教育に、防災訓練とかの写真で変えてしまった関係で、表紙とかどこかにそういった松葉杖であったりとか車椅子であったりとか、ちょっと何かハンディキャップをお持ちの方であったり、もう少し多様性の部分、配慮したイラストとします。

赤井教育長

はい、ありがとうございます。

石井委員

いじめ問題の、これは学校の先生か、いじめ問題の再発防止の 70 ページと概要の 7 ページ。あんまり学校の先生だけとしてないし、誰をイメージしているのか。

板垣係長

学校の先生ともとれるし、教育委員会ともとれる。ちょっと、限定はさせないような。

高田部長

これは板垣君チョイス。

板垣係長

イラストの調整とか、入れ替えとかは業者さんと色々調整して、ここは私も石井委員と同じ思いを最初は持ったんですけども、どっちとも取れるかなと思って、これはそのまままで載せました。

川上委員

概要版は基本、大人向けの理解ですかね。本編もちろん大人向けですけど、概要も大人向けの理解でいいですか。

赤井教育長

大人向けですね。はい。

川上委員

子ども向けを作る必要性は、あまりないですか。

松浦委員

そこですよ、そこなんです。

川上委員

子ども計画とかだと、自治体さんによっては「優しい版」でフリガナいっぱい振って、子ども向けで表現を簡略にしたのありますけど、教育振興基本計画だと、そこまでするのかどうかというのは、ちょっと悩ましいかなと思いつつ、今回というよりは、次以降の話かもしれないですね。

教育委員会の話ではなくなるんですけど、宝塚市の子ども計画見ても、なんかそういうのは作ってないんだなっていうのを今ちょっと確認をして、教育振興基本計画の概要版の方がよっぽど読みやすいなと思いました。子ども計画の概要版が大人向けすぎて、ちょっとびっくりしました。

赤井教育長

本当はそうですね。子どもに関するところだけを、子どもに持ってもらいたいところ、読んでもらいたいところだけをチョイスしたような、ミニ版があれば1番良いんですけどね、両方兼ねたような。

川上委員

印刷のペラ 1 枚を畳んでも 4 ページ分ぐらいで、子ども向けで関係しそうなものを、平易な表現にしたやつとかっていうのがあると良いのかな。次回に向けて考えられれば。

板垣係長

作成の過程で、やはり他市さんでそういう「優しい版」を作ってる自治体もございましたので、コンサル会社にそういう概要版が作れるかというのを相談していました。

今お出した概要版か、子ども向けか、どちらがいいですかという提案で、どうしても契約の金額上、どちらもっていうのがちょっとできませんでした。もし今後ご要望があれば、デザインは変わるかもしれないんですけども、子ども向けの平易なものとかであれば「優しい版」作りはするかもしれないですが、今回は大人向けでお作りしております。

川上委員

はい、わかりました。ありがとうございます。

春日井委員

予算次第ですけども、リーフレットみたいなね、これよりもまたさらに簡易なリーフレット版みたいなのがあると、その方が案外保護者も読んでいただいたり、そういった効果もあるかなという風には思っていますが。

またご検討ください。

板垣係長

はい。

石井委員

AI とか活用すれば、リーフレット作成は絶対できると思いますね。

ああ、でもデザイン上でダメですか。こっちで概要版を変更して「子ども版」を作るというのは。

赤井教育長

著作権がどこにあるか、なんですよ。

データでもらうんですか、納品は。

板垣係長

はい、データでいただきます。

赤井教育長

市の著作権になっているんだったら、後はちょっと編集できれば、印刷費だけ取ればいけるかもしれないですね。次年度に入ってからになるかもしれませんが。

板垣係長

春日井委員が Zoom から退出されたようです。

池本次長

春日井委員は、3 時からご予定があったと思います。

赤井教育長

そうですか。はい、わかりました。

他に意見ありますか。よろしいですかね。

池本次長

先ほどの計画、他の計画に市章が入ってるかどうかなんですけど、宝塚市の総合計画とスポーツ振興計画に入っております。

赤井教育長

入ってましたか、さすがだ。

池本次長

それ以外の計画には市章入っておりませんでしたので、基本的にはなしの方向でさせていただきます。いただこうかなと思ってます。

赤井教育長

他に意見ございませんか。よろしいですかね。

今後はもう、これで決定としていいんですよね。

飯田課長

はい、こちらで決定いただいた後に、市の都市経営会議の方に諮りまして、それが最終決定ということになります。

赤井教育長

わかりました。

他に意見、ございませんか。よろしいですか。

それではご意見無いようですので、議案第 4 号 第 2 次宝塚市教育振興基本計画（後期計画）の策定について、原案のとおり可決でよろしいですか。

委員

（承認）

赤井教育長

はい、ありがとうございます。

それでは続きまして、報告事項 令和 7 年度実施宝塚市学習理解度調査の結果について、担当課より説明をお願いします。

前川副課長

教育研究課から報告させていただきます。

お手元の資料をご覧になりながら、お聞きいただければと思います。

まず、この資料につきましては、過度の学校間競争につながる恐れがあるため、非公開としています。お手元の資料は回収させていただきますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

では、本年度の宝塚市中学校学習理解度調査について、分析結果をとりまとめましたので報告いたします。

まず、資料の 1 ページをご覧ください。

本調査は令和 8 年 1 月 8 日、宝塚市立中学校 12 校の 2 年生を対象に、国語・社会・数学・理科・英語の 5 教科について、株式会社 新学社（しんがくしゃ）との委託契約に基づいて実施いたしました。当日の受検生徒数は 12 校合わせて 1,567 名でした。なお、欠席等で受検していない生徒数は 175 名でした。受検状況につきましては 16 ページに掲載しておりますのでご参照ください。

2 ページをご覧ください。本調査の教科別平均点と表と棒グラフで掲載しています。市内の平均点は、今年度、数学と英語が 60 点と最も高い点数となっています。

3 ページをご覧ください。本調査は 15 年目となりますが、直近 6 年間の平均点の経年変化がわかるように掲載しております。この 6 年間の調査からは、市の傾向として、基礎的な知識や選択問題については比較的高い得点率を維持している一方、記述問題や応用問題、資料を読み取って説明する問題など、思考力・表現力を問う設問で得点率が下がる傾向が続いています。

4 ページから 7 ページをご覧ください。各校の本年度と昨年度の結果をレーダーチャートにまとめて掲載しております。市内平均点と学校平均点を比較した表になります。

8 ページと 9 ページには、過去 4 年間の出題内容を掲載しています。

10 ページから 14 ページには、委託業者である新学社による分析を参考にした結果概要を

掲載しています。詳細は、ご一読いただければと思いますが、結果概要を教科ごとに報告いたします。

全体を通しての本市の得点分布の特徴ですが、基礎的な知識や選択問題は高得点で安定しています。一方、思考・表現・理由説明・資料読解・記述力など、応用的な力を問う設問で得点率が低下する傾向がみられました。具体的には、国語は、記述問題（特に説明的文章や古文の内容理解）、文法（品詞識別）、漢字の書き取り、表現力に課題がみられました。社会は、歴史分野（特に古代～中世）、世界地理、資料読解や記述問題で得点率が低い結果となりました。数学は、文字式の活用、理由説明、関数利用、計算ミスや式の立て方に課題が見られました。理科は、作図、計算問題、用語記述（特に神経系や化学反応式）、資料からの情報整理に課題が見られました。英語は、整序作文・条件英作文、適語補充（文法・時制・語順）、情報整理に課題が見られました。その一方、リスニングの得点率は 80%と、毎年高い得点率を維持しています。

本調査の問題作成にあたっては本市の教員が携わっており、全国学力・学習状況調査と同様で「主体的・対話的で深い学び」を重視した問題を出題するなどの工夫をしておりますが、課題として挙げられている理由や考えを記述する設問、複数の情報を組み合わせて答える設問などへの対応が十分になされていない状況です。今回の理解度調査の結果を活かして、本市の抱える課題解決につながる授業づくりに還元できるように各教科部会と連携して、改善を行う必要があると考えています。基礎知識の定着と並行して、応用的な記述・思考・表現力を伸ばすためにはどのような授業を行えばよいのかという観点から、授業改善が必要と考えております。教員が意識的に改善に取り組めるように研修等を通じて支援していきたいと思っております。

15 ページには生徒に配布された個人分析票の見本を掲載しています。各学校ではこの個人分析票を、各自の学習理解度を客観的に分析する機会とすることで、一人一人がこれからの 1 年間、どのように学習に向かうべきかを考える資料の一部としています。苦手教科については弱点を克服し、得意教科ではより充実した学習となるように、専門的なアドバイスは教科担任が授業の中で行ったり、学習面での全体的なアドバイスは、学級担任が 3 学期に実施する個人面談等で行ったりしています。

最後に、この学習理解度調査を主催しております中学校長会からは、本調査の継続を強く要望されていましたが、今回の調査をもって現在の形での実施は終了となります。調査結果から生徒の実態を把握し、授業改善を進めていくことを目標にしていたものの、十分にその目標が達成されず、実際には調査を実施してその結果を生徒に配って終わっていたということが大きな反省点となっています。

しかし、生徒の実態を把握し、生徒の学習状況をもとに授業改善を進めることは必須の取組であります。そのため、今後につきましては校長会と連携して各教科部会において改めて本市の生徒たちに知識だけでなく、学び方も含めた付けさせたい力を共通理解し、各教科部会において研究テーマを設定し、市内統一の共通問題を作成するなどして、再度理解度調査

の在り方を検討していく方向性で進めていくことを確認しております。

3月17日には、その第一歩として、まず今回行った本調査につき各教科部会の分析結果を集約し、各学校でのこれまでの取組成果や課題等を確認する予定です。教育委員会事務局としましても、これらの取組に対して必要に応じて指導主事を派遣するなどして、目的の達成に必要な支援を行うなど学校と連携して取り組んでまいります。

以上となります。

赤井教育長

はい、ありがとうございます。

それでは、何かご質問等ありましたらお願いします。

川上委員

これ、試験問題自体は公表ですか、非公表ですか。

太田係長

一旦子どもたちにも言わないで、回収する形になっています。

川上委員

なるほど。

でも、毎年作問は全面リニューアルをしながらされている。

太田係長

はい。毎年似たような問題にならないように、特に社会とかは、同じ単元にならないような工夫をして、出題をしていると聞いています。

川上委員

なるほど。

いや、どうせ回収するんだったら、一部問題共通させておいた方が経年の比較がしやすいですよ。

同じ問題をいくつか混ぜ込んでおいて、何年前に比べてできるようになったとか、なんか定着はいまいちだみたいな話をしたいんだとすると、毎年全面リニューアルをしていると比較ができなくなってしまいますよね。

授業改善するにしても、この辺の定着が図られましたねっていうのは、同じ問題を全部使うのがあんまりだとすれば、ちょっと一部共通問題混ぜ込むとか、毎年じゃなくて2年にいっぺん同じ問題出しますっていうようなものを使ってみるとか、ちょっと比較ができる工夫をされてみてもいいのかな。今後の話になりますけど。

それをしないと、年度年度の学校間とか、個人間でどこがどうやったという比較のみで止まっちゃいますよね。

なので、ちょっと試験の設計の仕方みたいなところは、少し工夫をされた方が良いと思います。多分出題のコストもめっちゃめっちゃかかってる感じだと思うので。

2年に一回、同じ問題を出題するだけで、多分出題コストはそれだけで半分とかですよ。

半分は作らなくて良くなる。3年にいっぺんでいいやとかになると、多分もうちょっと、何パターンか出題セット作っておいて、こう混ぜ混ぜしながら何年間か出し続けるみたいなことをしていれば、ちょっと比較はしやすいし、出題コスト自体も下がるのかなという、気がするので、なんかそんなことはこの後工夫されてもいいのかなという感想を持ちました。

山下次長

有難うございます。

今副課長から説明がありましたけれども、今年度で終わる事業です。

で、今委員がおっしゃったことが課題なので、いわゆる経年比較が出てるのかとか、今後やりたかったんですけど、泣く泣くこの事業を終了しました。これ実はこの業者で、随意契約じゃないですけども、やはりここにずっと頼まなきゃいけない理由がありました。

理由は、教科部会ごとに問題を作成して、業者に依頼をするんですけども、今年ここまできてないから、ここを削った範囲でテストを作ってというような作り方を、業者がカスタマイズできるので、教科部会の希望に応じられる業者でした。どっちかというとならガラス版を透かしてしまったようなテストになってたし、他市町との比較ができないですね。

ですから、宝塚市内の1500人ぐらいの子どもの中での立ち位置はわかるんですけども、第2学区、第1学区とかっていう受験をする中で、大体自分がどの位置にあるかっていうのは見えにくいなっていう、そういう比較もちょっと難しくてですね。

じゃあ、この内容だったら、AIドリルかなんかを使ってテストはできるんじゃないかなっていうことで、これに代わるものとして、今また校長会を中心にやっているんですが、1つは、自分たちでAIドリルを使って、お金を掛けずにやるということと、2つ目は業者テストですね、模試というか、全国的に点数が自分たちで分かるようなものをやりたいなっていう声も、学年の先生方からは出ているという風には今私たちは聞いています。

川上委員

なるほど。わかりました。

赤井教育長

ほかに何かご質問等、ありますか。

石井委員

4 件ほどあるんですけども、まず未受験者数 1 割強ぐらいですか。毎年こんなにいましたか。今年は気になったんですが。

太田係長

今年度も多分、例年と極端には変わってなかったと思うんですけど。
毎年、似たような数字にはなってたかなと。

石井委員

そうですね。その中で、安倉中学校が多いなと思ったんですが。
あと高司中学校ですね。これはなんか理由があるんですか。

太田係長

理由は特に聞いてはいなくて、各学校から未受験者数を報告してくださいということで、昨年度 171 名で、今年度 175 名、昨年比較で 4 名違うという結果でした。

石井委員

割合は変わらないですか。

太田係長

はい。高司中学校が昨年度は 21 名、安倉中学校が昨年度 17 名の未受験者の方がいらっ
しゃいます。

前川副課長

ちょっと調べてみないとわからないんですが、1 月はインフルエンザ等の流行で学級閉鎖
もあったかもしれませんので、そういったところも調べてみます。

川上委員

これ、未受験者数合計の左に乗っかってる数字って、その理由の内訳みたいなものでは
ね。

そこ足し算して、欠席理由がそれぞれ出ているのである程度分かりますね。

石井委員

ちょっと高司中学校は、欠席者数が異常じゃないかな。

川上委員

欠席理由、特別支援の数が多いんですかね。支援級でっていうのが、
で、これ、不登校がっていうのが多いそうですね。

石井委員

不登校、ちょっと例年どおりであればあれなんですけども。

で、他に 3 点ほどあるんですが、今年で終わりなんであれなんですけど、学校風土との関連、学校間じゃなくて学校の経年を見る上で、例えば五月台中学校であれば、昨年度から今年度はだいぶ落ち込んでるんで、アセス・B-SAFE などの数値との相関がどうなってるのか、もしわかればお伺いしたいなんですけども。

前川副課長

ちょっと今、教育支援課さんの事業「アセス・B-SAFE」との連携まではできてません。

石井委員

そうですか。そうしたら、またちょっとお伺いできますか。

前川副課長

はい。

石井委員

確認したいんですが、これはバカロレアの時も言ってたんですけども、やっぱり西谷の人数が少ない。

人数が少ないから学力が低いっていうのは、ちょっと違うと思うんですよね。

少ないが故に、高く振れる時もあると思うんで。

この数年こういう状況で、ちょっと濁さず言えば、バカロレアやってる場合なのかっていう風に思います。

前のバカロレアの説明会、2月9日に参加させてもらったんですけど、特段その話はなかったんで、この辺りはちょっと、ここで話す内容どうかどうかはあれなんですけども。平均点で比べても相当だと思うので。

いや、受験者数が 9 人なので分からないんですが、この中の 2 人ぐらいが点数が 1 桁近くて、偏差的にバラついてるんであれば仕方ないかもしれないですけど。そこはちょっとね、わからないし、個人情報になっちゃうと思うんで出せないとは思いますが。

ただ、この数字状況、この数年で、何でだって思います。

あとは、これはちょっとよく言われてる話なんですけども、5 段階評価が絶対評価であるという上で、この学校間の点数差がきちっと通知内申点の状況にリンクしているかどうか。要は、わかりやすく言えば、西谷中学校の内申点「5」の子と宝梅中学校の「5」の子は、き

ちっと一緒ですか、っていうことですね。

絶対評価という上で、そうでないとおかしい話だと思うので。そこは市教育委員会で確認取れますかね。多分市議会でもたまに出ているはずですよ。

大善副課長

日々の学期ごとの通知表の数字や評定は、各学校の中で処理されていまして、入試で使われる、いわゆる内申書ですね、この入試で使われる部分については、評定一覧というものを学校が作って、県の教育委員会に提出をしています。

評定一覧は直接学校が県に出しますし、それぞれの資料を、教育委員会が集めるということとはしていないので、手元にそんな数字があるかと言われると、現状はないという状況になってます。

評価については、絶対評価なので、評価基準の中で基準を作って、学習の考え方に基づいてつけられているので、この学習理解度調査との関連、そこまでが全部私分かっていないですけれども、基本的にはその基準の中で公平に評価がつけられているという理解をしています。

石井委員

現場を市教育委員会は見てないけど、してるだろう、ですか。

大善服課長

そうですね、各学校で評価基準を作って、その中でやっているという理解をしています。

石井委員

いや、各学校でやっちゃうと、絶対評価にならないと思うんです。学校内での相対評価になっちゃうと思うんですよ。

高田部長

割合みたいなものですかね、割合。

石井委員

そう。で、学校内での相対評価ではなくて絶対評価にしましょうっていうの、だいぶ前に決定していたじゃないですか。

それがきちんと現場の学校でされてますか、っていうことです。

大善副課長

学校では、絶対評価がなされていると考えてます。で、相対評価その「5」が10パーセン

トとか、「3」は 40 パーセントとかあったんですけども、その考え方は現在ない。

石井委員

そうすると、宝梅中学校の方が「5」の生徒が多くて、西谷中学校は少ないっていう風になってるかっていうことですが。

山下次長

まずおそらく、この理解度調査は、成績には入れないということを聞いています。これに関しては。

で、今おっしゃってるその高校受験に際する評定等に関しては、今大善副課長からご説明があったように、県の方で統一の見解を持っていて、絶対評価、全員が同じようにというか、大きな方向性として振り切ってますので。

ただ、市で統一して、それをこうやって学校、校長会からそういう話は若干されているかもしれませんが、教育委員会では合わせてないですね、確か。

それに基づいてやってくださいってこと。

石井委員

もうそこはノータッチで行く感じですか、今後。割合というよりも。

要は、どこどこ中学校で評価「5」の子が、どっかの中学校行ったら「3」とか「4」になっちゃうってことは起こってませんかという話ですね。

山下次長

これは本当に私たちのずっと大きな課題でした。

それは高校になると、もっと大きな課題になって、大学への受験に影響しますので、それはおっしゃる通りですけども、そこはもう一定の基準で言われていることを各学校がそれにのっかってやっているとということしかないのかもしれないかもしれません。

ただ、今言われたようなご意見に関しては、こういうものが委員会の中で話題になったよってということで、阪神教育事務所なんかで話題にすることは可能だと思います。

石井委員

ちょっと市教育委員会が入るかね、難しいところだと思うんですけど。

不公平があってはならないと思うんでね。だけど、僕もね、教育サービスを 15 年、16 年やってますが、ずっと聞くので、これは。

そのために転校する親御さんも出てるんで、そこはちょっと何かしらいるんじゃないかなとは思いますが。

バカロレアは心配です。

藤川部長

西谷中学校の方で、バカロレアの説明会が地域の方であったりとか、西谷中学校の卒業生も来ていた会があって、そこに出させていただいたんですが、その卒業生の方から、今日石井委員が言われたような、西谷中学校の子は学力が低いっていうことを聞いたことがありました。

非常に気になりまして、全国学力学習状況調査の結果を見たところ、県とかまた国の調査と比較してそんなに大きな開きじゃないなというのを確認しました。

もしかしたら、年度によって若干何かがあるのかもわかりませんが、その卒業生が言っていたその西谷中学校の子はっていうのは、何を基に話してたのかなと、ちょっと思うようなことがありました。

ただ、石井委員が仰ったように、人数が少ない分、その平均点の振れ幅があるというのは理解できますし、その辺を丁寧にまた見ていく必要があるかなとは思っています。

基礎学力の部分っていうのは、通常のレベルまで必要があります。あと、バカロレアについては、学校に、いわゆる総合的な学習の部分にも大きく影響して関係してくると思いますので、その基礎学力の部分と総合的な部分というのは、両方とも大事にしながらやっていくものだと思いますので、これからもどういう風にそれを進めていくかっていうことをよく検討しながらやっていく必要があるかなとは思っております。

赤井教育長

他、どうでしょうか。

松浦委員

最初にご説明のあった中の、宝塚の子どもたちが、基礎は結構定着しているけれど、応用問題とかに弱いていうのも、数年来ずっと同じ傾向が続いてきてたと思うんですけど、その教科部会ごとの授業改善の成果みたいなものは、具体的に成果が上がったものっていうのも、それはあったんでしょうか。

山下次長

毎年その時に問題を変えていますので、評価の点数という点では、観点では上下の変化は見れますけども、同じ問題でそうだったのかっていうことがまず分からないのと、今おっしゃったように、これが終わった後、改善に活かさなきゃいけないので、担当の先生方は色々な改善に活かす方策が書かれているんですが、報告のためのまとめみたいになっておるところがあって、実際は子どもたちにテストを終えた後、個票を返して、そこで終わっていることが多いという実態があったと。

だったら、この事業っていうのはどれも削りたくなかったんですが、そういった面で言う

と、これはまた見直しを図ってAIドリルとかに変わるんじゃないかなっていうようなことになっています。

松浦委員

ということは、もう少しその成果がちゃんと見える形のものにしようということですか。

山下次長

その動きが今課題という風に捉えて、こうしなくなってしまったので、ちょっと刺激にはなったわけだと思うんですね。毎年テストあったものがなくなりましたので、じゃあきっちり課題を見つけれられるようにして、活かせるようなものを作っていきべきだね、っていう動きが今あるっていうのは、校長会であって、各部会の方から耳に入ってます。

松浦委員

なるほど。じゃあ、やっぱり、先ほど川上委員がおっしゃったみたいに、実際に成果が図れる形の試験にして、もう少しそこをシビアに、成果ちゃんと見ていきましょうっていう方向になりつつある、と考えているっていうことですね。

山下次長

今委員が仰ったようなことを、経年変化がしやすいような問題作成にすればどうですかっていうのは、またこちらとしてもお伝えしておこうと思っています。

松浦委員

はい、わかりました。

川上委員

多分、この試験自体が全部満点が100ですかね。ですよ。で、平均が50点台から60点ちょいぐらいのところ毎年作られているので、多分全国学調よりも差が広がりやすいとか、全国学調、割と高いところに平均がいきやすい分、その差が付きやすい問題を出題されてるんだらうなと。差が見えやすい出題になってるんだらうなというのはなんとなくわかります。

という中で、ずっとこう、3ページの経年見ても、しんどい学校はしんどいで、取れる学校は取れるみたいな話になってしまっていて、ただそれだとしんどい学校はしんどいよね、で終わってしまうので、こうやってご覧になってる中で、改善に使おうと思うと、いろんな条件を見比べてみると、この学校しんどいはずなのに、そんなに出てきてる数字がしんどくないなっていう学校がちょこっとでも見つかったら、これ、どうやって底上げしてはんねやろねっていう話に多分なるはずで。なんかそういう気づきの埋まってるような学校

さんっていうのは、ありますか。

山下次長

今、委員がお持ちになっているのはカラーの資料ですか。黄色と赤で色がされてますか。

それは我々も常に研究課としても課題になっていて、じゃあ、その地域性だったりすれば、その学校が点が取れないんであればですね、教師って何のために行くんだっていうような、そういう根本的な話になるんですよ。

例えば、ずっと黄色いところが続いてあるんであれば、白塗りだったり、明るくなるような、力のある教員を配置するのを管理部なんかと相談したりすればいいんですけども、そういうのを調べて、均一に配当されてるんですが、結果的にこういうことが続いています。そこは本当に大きな課題だと思っています。

赤井教育長

聞いてよろしいでしょうか。

今日、これ、教育委員会用に、この宝塚市の傾向が見えるように、全学校こういった資料出してもらってるじゃないですか。

各学校にはどの項目が報告されてますか。個人と、この点数と市内の平均だけ、教科ごとの、このレーダーチャートの。

これは結果として、学校ごとにわかるんですかね。

太田係長

レーダーチャートは学校ごとにと。学校に今届いてるのは、個別の成績表と市内の平均、教科ごとの、になります。

赤井教育長

で、個人生徒には全部個人の成績のものが渡されると。

この市全体の分析のコメントというのは、市全体であっても、各学校はこれを見た時に自分ところにも当てはまるなっていうのが、分かるんですか。学校ごとには業者さん作ってくれてると思えないので、これは渡ってるんですか。

太田係長

一応確認したところ、それも市教委のみに届いています。

赤井教育長

学校は平均点の数字しか見ないんですよ。

その項目がどうだっていう、その部分は、生徒1人1人の分を見た上で、個人のレベルで

しかなくて、学校全体がどうだっていうのはなかなか知りえることはできないんですかね。どこに力を入れないといけないかっていうのは。

太田係長

学校ごとの課題とかは出てはないです。今考えてるのは、この教科ごとの新学社さんの出している分析のところは、各教科部会の校長先生にはお渡しして、これを基に教科部会で課題を見つけて、次の来年度に向けて授業改善であったりとか、研究テーマ設定して進めていくってというのは、今後していただこうかなと思っております。

赤井教育長

学校の規模によって、教科の先生の人数も違いますよね。

複数人いてるところは、当然複数人で共有して、それぞれのアイデア出しながらできると思うんですけど、西谷中学校だったら、たった先生は1人ですよ。で、1人で考えて、1人で解決しなくちゃいけないんですよ、その辺りは。

そういった意味では、市教育委員会からの支援がいるとか、そういうことも考えないといけないのかもしれないですね。

で、西谷中学校は、幸いって言ったら変な言い方ですけど、中学校の成績を見せる云々よりも、教科のどういうところが弱いかって基礎付ける時に、西谷小学校にこういうところは評価が必要じゃないですかという助言を働きかけることはこれをもってできるんですか。やろうと思ったらできますか。

それとも、もう中学3年、2年生でやるから、3年生だけの1年間での、その基礎的なものを取り戻すような力を付けないといけないのか。

ちょっとその辺り、感覚的でもいいので教えてください。

国語のコメント読んだときに、品詞、形容詞とか副詞、それって中学校2年生までにいろんな場面で習ってきてると思うんですけど、今更ここが弱かってコメントされても、なかなか先生、1年間でそれを中心になんていうレベルじゃないように思うんです。

それぞれの小学校からの段階でしっかりと積み上げていくような取組をしないと、なかなか学校全体の学力の底上げができないんじゃないかなという思いも持ったりして、報告書を見させてもらいました。そういった意味では、やっぱり西谷中学校は気になるんで、市教育委員会の関わりとか、もうちょっと小中連続してでも力をつける方法を考えていかなければいけないかなっていう見方をしたんですが、この件について他にコメントもらえたらと思うんですけど、どうですか。

前川副課長

現状、この学習理解度調査の結果を、例えば小学校に渡したとしても、だからどうなんだというところで多分終わってしまうと思ってます。

先ほど太田係長の方から申し上げた通り、今回お話しした内容が、実はよく調べてみると市教育委員会しか分かってなかったというところも、恥ずかしながら今回は分かったところもあります。

で、学習理解度調査を、業者のテストから、業者のテストが使えない、もう予算がつかないとなった時点で、今校長会の話をしてるのは、子どもたちにどういう力をつけたいかという観点から、もう一度先生方で、中学校2年生のこの時期までにはこういった力がついていないといけない、というのをまず考えた上で設問を作りませんか、という風に提案しています。

そうすることによって、その結果が悪ければ、分析せずに、自分たちで考えた、付けさせたい力がはっきりとしてるので、それを授業に生かせばいいと。

その考え方は中学校2年生でなくてもよくてですね、1年生の段階から同じようにそれをやっていただけたら、1年生から2年生、2年生から3年生にどうステップアップしたかというのが見える化できるんじゃないか、という風に思っています。

ですので、今おっしゃっていただいたように、それが1年生からスタートすれば、1年生のこの時期に学校ごとの特徴が出てくると思いますので、じゃあ、この学校ではこういうことが課題だったから、小学校ではやはりここ、もうちょっと力入れてもらえませんか。

入れないといけないんじゃないか、っていうことは分析できるとは思っております。

ですので、今すぐにこの結果を持って、小学校での取組を決めることはできないんですけども、今の考え方をうまく表現できるような形になれば、そういった小中連携っていうところも含めて、良い形には動くんじゃないかと思っております。

そのためには、先ほどもお伝えしたんですが、市教育委員会、特に教育研究課の指導主事が、学校それぞれの強みや弱みを分かった上で、関わっていく支援が必要だというふうに考えております。

赤井教育長

はい、わかりました。ありがとうございます。

他どうですか。何かご質問等ありますか。

石井委員

さっきの報告の中で、学校単位での報告で、中学校での経年変化は分かっているんですか、現場で。

例えば五月台中学校だと、今回社会がすごい落ちてるわけじゃないですか。こういうのは学校の現場では把握しているんですか。

太田係長

今回の結果は、経年ではお渡ししてないです。

石井委員

渡してないんですか。

赤井教育長

毎年渡してるから、毎年残してたら自分で比べることができる、ということですね。

山下次長

学校が持ってて、経年比較の意識があったら、毎年を比べることができるということですね。

赤井教育長

校長とか先生が変わっていたら、もう継続性はなくなってるかもしれないけどね。

山下次長

今、教育長がおっしゃったとおり、石井委員がおっしゃっていることなんですけど、これ、学力学習状況調査の時も、本当にどこまで公表するのか、各学校の立ち位置と、市、県、国っていうものとの比較はできるんだけど、自分たちの学校が一体どうなってるんだっていう、横展開は全然できないんです。

学力学習状況調査っていうものに関しては、導入の時から大きな軋轢みたいのがありましたので、それを引っ張ってきてるところがあると思うんですが、学習理解度調査に関しては、市独自でやってるものですから、ぱっと見せてもいいのかもしれませんが、おそらく返ってくるのは学校間の高低、学力の高低を表すだけで、それが何の意味を持たせるんだっていうのが議論になるかもしれない。

だから、本当にこれを底入れするんだったら、横展開をしなきゃいけないっていうことは、その感覚を払拭して、市全体として見ていくという考え方っていうのは、これはもうこのテストだけに限らず、いろんな面であるっていうのは思います。

赤井教育長

けど、今石井委員が言われたように、横展開の以前に、先生が変わっていても、学校としてどういう傾向があるんだっていうのは、その経年変化で最低意識していかないとダメですよ。

おそらく学校として弱いところとか、強みがわからないと今後に活かせない。そこは大事なかなって。石井委員が言われたとおりやと思います。

それができて、次の段階が横展開かもしれませんよね。

けど、これやめて新しい形にすることで、学校ごとがそれぞれ自分事というか、もっと活

用していけるものにしていこうという思いを持って取り組めるから、今までの15年間、無駄とは言いませんけど、反省を今回活かしていくっていうふうに捉えたらいいんですよね。

石井委員

学力調査は、根本的に問題の中身も違いますしこういう川上委員が仰るように差が生まれないっていうのはそのとおりで、問題の中身も質も違うので、こういう基礎学力というか、入試本番何点取れますか、みたいなテストがなくなるので不安が残ると思うんです。学力調査があるからではなくて、AI テストでもいいんですけども、何かしらちょっと学力を知る手段をやっておかないと、怖い気がしてきました。

前川副課長

今、こちらの方からお伝えし学習理解度調査に変わる新しい分に関しては、昨年の当初から校長会の方で動いてまして、来年度、これに変わる形のテストをどう作るかということで、問題作成のところまで各教科部会を起こしてもらってるところです。

なので、どういう形になるかというのはまだ先の話なんですけども、またその進展があると思いますので、その際にはお伝えできるかと思えます。

石井委員

わかりました。

赤井教育長

他、ご意見ございませんか。

はい。そうしましたら、この件につきましては以上とします。

ここからは、次の案件につきましては、教員の個人に関する案件となりますので、非公開とでの報告とします。

説明者以外、説明以外の方は退出をお願いします。

【説明員以外退出】

赤井教育長

それでは、報告第2号 専決処分した事件の承認を求めることについて（宝塚市公立学校教員の処分内申について）、担当課より説明をお願いします。

【非公開での報告事項あり】

赤井教育長

続きまして、報告第 3 号 専決処分した事件の承認を求めることについて（宝塚市公立学校教員の処分内申について）、担当課より説明をお願いします。

【非公開での報告事項あり】

赤井教育長

本日の予定案件は以上ですが、他にご報告いただくことはありますか。

飯田課長

他に案件はございません。

赤井教育長

それでは、本日の教育委員会定例会は以上といたします。

どうもありがとうございました。

————— 閉会 午後 3 時 55 分 —————